



# KOMAKYO だより

小松教育事務所

**NO.3**  
**H.24.11.1**

## 「学級集団づくりの工夫」編



子どもたちが生き生きと学校生活を送るための基盤となる「学級集団づくり」。あたたかな人間関係の中でこそ、子どもたちは安心して過ごし、学び合うことができます。皆さんはどんな工夫をされていますか？

### 「現状と課題」

- ◆すべての子どもたちにとって、学級が安心して過ごせる場になっていますか。
- ◆学級づくりの方向性が、学校全体として共有されていますか。
- ◆発達の段階に応じて、学年や小中の系統性は明確になっていますか。

## 改善のためのポイント

### ポイント1 ルールの確立が大切です！

#### 学級のルールづくり

- ・学級がみんなにとって楽しく過ごす場となるための約束ごととして、児童生徒の願いを取り入れた「理想の学級」の状態を確認します。
- ・理想の学級の状態を成立させるための学級目標を設定し合意します。
- ・学級目標を達成するためにみんなで守るルールを設定し、全員で守ることを約束します。  
(多くても5つ程度からスタートしてみるとよいでしょう)
- ・教師もルールを守ります。(言っていることと行動がずれないようにします)
- ・守っている子を褒め、ルール違反には適切に対応します。(例外を作りません)

#### 授業のルールの徹底

- ・新年度開始時には、具体的に子どもたちに示し、くりかえし丁寧に確認を行って定着を図ります。 <例えば>○時間を守る。(チャイムと共に始まる・終わる)
  - 最初と最後の挨拶をしっかり行う。
  - 休み時間とのけじめをはっきりする。(言葉遣い)(態度)
  - 話す人の目を見て体を向けて聴く。
  - 聴いてねという気持ちでみんなの方を見て話す。



学校全体で取り組むことが大切です。

### ポイント2 主体的に学ぶための学級づくりに子どもたち自身が参画することが大切です！

#### めざす授業について考える

- ・めざす授業像を話し合っって掲げ、みんなでめざします。
- ・学力を伸ばすためにできることを、子どもたちが主体的に考えます。

モデルとなる授業をビデオで一緒に見るのもいいですね。

### ポイント3 子どもたちどうしのつながりを育むことが大切です！

#### 人間関係を固定化しない工夫 <例えば…>

- ・定期的に席替えをし、ペアやグループ活動でいろいろな人と関わる機会を増やします。
- ・帰りの会等に、人間関係づくりのショートエクササイズやソーシャルスキルトレーニングの要素を盛り込むことも有効です。

### ポイント4 子どもの自己有用感・自己肯定感を育む

#### 認め合える取組 <例えば…>

○友達のいいとこさがし

- ・帰りの会の最後に1日の中で見つけた友達のいいところを伝え合います。  
(3～4人のグループになり伝え合えば短時間で全員が参加できます)
- ・班ノートを回して、友達のよさを発見します。

#### 先生の言葉かけ

- ・褒めるときには、「ありがとう」「うれしい」「助かった」などの気持ちを加えます。
- ・名前を入れて声をかけます。「〇〇さん、おはよう」
- ・「〇〇さんが学級にいてくれてよかった」「あなたたちの担任になって良かった」というメッセージが伝わるように心がけます。

つながりと同時に  
一人一人も大切に  
します。



### ポイント5 特別活動を充実させて集団づくりに生かすことが大切です！

#### 特別活動

- ・活動する前には、目標、活動の流れ、役割分担をみんなできちんと確認します。
- ・「みんなに貢献できた」「必要とされている」「やったらできた」という喜びを体験させます。
- ・適切なポイントで児童生徒の意欲の喚起・維持を行います。

達成感を味わうと・・・自主的に行動しようとする意欲が高まります。

受容された喜びが満たされると・・・他の人を受け入れる余裕が生まれます。

「必要とされている」「集団に貢献できている」という喜びが積み重なると

・・・自ら集団に寄与しようとするようになります。

### ポイント6 学校全体が同じ意識で取り組むことが大切です！

#### 系統性の重視

- ・学習ルールや聴き方話し方のルール等について、全教職員で共有する機会をもち、校内で一貫した指導を目指します。また随時検証し見直しを図ります。
- ・小中で連携し、発達段階に応じた、一貫性のある指導ができるようにします。

#### 特別な支援を要する子や生徒指導で配慮を要する子に対する手立て

- ・特別支援教育の基礎知識と、児童生徒の実態を全教職員で共有し、「〇〇さんはどんな状態なのか。どんな対応が必要なのか。」等を確認しながら同じ対応をすることが大切です。
- ・担任の支援や関わり方を周囲の子どもたちは常に見ています。その子への接し方のモデルとなることを意識して接することも重要です。

温かい人間関係づくりで、笑顔あふれる学級に！

